

協力して学び、学習問題を主体的に解決する児童を育む 小学校社会科指導の工夫

— 学び合い活動と振り返り活動を取り入れた単元構想を通して —

長期研修員 白井 拓生

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科において、単元を通して協力して学び、学習内容を共有しながら、児童一人一人が考えをもち、グループで考えを練り上げるとともに、この学び合いから考えの変容に気付き、学習の進め方を改善する振り返りを取り入れることで、「学習問題を主体的に解決する児童を育てる」ことの有効性を明らかにしたものである。

- 1 学習問題を解決していく中で、学習内容を共有し、自己の考えをもち、意見交流を行うことで、考えを広げ深める学び合い活動を取り入れる。
- 2 学習を振り返る場面で、自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善する意識を高める振り返り活動を取り入れる。

キーワード 【社会—小 学習問題を主体的に解決する 学び合い活動 振り返り活動】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 令和4年度 279集

I 主題設定の理由

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、「目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すこと」と令和3年1月の中央教育審議会答申で提言されている。この提言から、学校現場では、協働的に学習に取り組みながら主体的に解決する児童の育成が求められていると考えられる。さらに、この答申の中で、令和の日本型学校教育の直面する課題に児童の学習意欲の低下も挙げられており、学習意欲を高めるために、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ることが必要になるとも述べられている。また、個別最適な学びの充実によって「自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等の育成」と「子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習問題に取り組む機会の提供」を目指すこと、協働的な学びの充実によって「探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会の変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成すること」を目指すことが述べられている。個別最適な学びと協働的な学びでは、子供たちが「学習調整力」を働かせ、他者と関わり、自己の学習状況を把握、改善しながら主体的に解決する児童の育成が求められている。さらに、ICTを活用することで、課題解決の過程で習得した知識や育んだ思考を蓄積し、振り返り、次時以降の予想や仮説、検証につなげることができるための「学習履歴(スタディ・ログ)にまとめていくこと」も主体的に解決する児童を育む上で大切である。そこで、授業の板書や動画集、単元のキーワードなど、学習内容をまとめたものをICTを活用して作成し、クラウド上で常時閲覧できるようにすることで、授業時間だけにとらわれず、学習内容の復習や発展的な学習につなげ、より主体的に取り組む態度が育まれると考える。

群馬県でも令和4年度学校教育の指針で「確かな学力の育成」として、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けたICTの有効活用の促進」、「『はばたく群馬の指導プランⅡ』等を踏まえるなど、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」、「学習改善や指導改善につながる、指導と評価の一体化の充実」が挙げられている。県の指針からICTを活用し、互いの意見を交流することで、自己の考えの広がりや深まりに気付くこと、学習を振り返り、自己の学習状況を把握、改善しながら主体的に取り組むことの必要性があると言える。そこで、学習問題について、協力して学び、自己の考えをグループで共有し、考えを広げ深めること、協力して取り組む態度を振り返り、学習改善につなげていくことを充実させていくことが大切だと考えられる。

学習指導要領解説社会編(平成29年告示)では、「社会との関わりを意識して学習の問題を追究・解決する学習の充実を図り、学習過程において『主体的・対話的で深い学び』が実現するように指導方法の不断の見直し、改善を図る。」と示されている。しかし、「話合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらない」といった課題も示されている。このことから学習問題を追究していく上で、ICTを有効活用し、互いの意見を確認し、そのよさを認め合いながら、自分の考えを広げ深めることができる活動や、自分の考えの広がりや深まりに気付くとともに、次の学習を見通して、学習改善の意識をもつことのできる活動を行うことが必要であると考えた。この2つの活動を取り入れて学習を進めていくことで、児童の「主体的・対話的で深い学び」や「話合いの内容を深める」ことに有効だと考える。

研究協力校(以下協力校)では、「はばたく群馬の指導プランⅡ」の「めあて」と「振り返り」を意識した授業作りを「〇〇小授業スタンダード」として、各教科の授業で取り入れている。1単位時間ごとの「めあて」と「振り返り」を意識した授業を行うことで、子供も授業のめあてを意識した振り返りを記述しようとする姿が見られるようになっている。しかし、授業のめあて達成に向けて、児童自身がどのように学習を進めていくのかを考えたり、自らの力で解決していこうとしたりする姿は、あまり見られないと感じている。そこで先も述べたように、考えを広げ深めることができる活動と学習改善の意識をもつことのできる活動を通して、子供が協力して学び、主体的に解決することができるようになることを考える。

以上のことから、社会科の単元の学習問題を解決する過程において、学び合い活動と振り返り活動を取り入れた単元構想により、協力して学び、学習問題を主体的に解決する児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科において、「学び合い活動」で単元を通して協力して学ぶことで、学習した内容を共有し、自己の考えをもち、グループの考えへと練り上げ、自己の考えを広げ深める。また、「振り返り活動」で学習問題について自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善し、学習問題を主体的に解決する児童を育むことの有効性を明らかにする。

III 研究仮説（研究の見通し）

- 1 「学び合い共有シート」を活用した学び合い活動において、学習した内容を共有し、自己の考えをもち、グループでの意見交流を通して、比較・検討・複合し、考えを練り上げることで、児童が協力し、学習問題を主体的に解決することができるであろう。
- 2 「Look Back Sheet」を活用した振り返り活動において、学び合い活動での考えの広がりや深まり、学習の進め方を振り返って、学習問題について自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善する意識を高めることで、学習問題を主体的に解決することができるであろう。

IV 研究の内容

1 文言の定義

(1) 「学習問題を主体的に解決する」とは

学習問題やその解決に向けた1単位時間ごとのめあてに対して、学習した内容を共有し、自己の考えをもち、グループでの意見交流を通して、比較・検討・複合し、考えを練り上げ、自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善しながら、解決していくことである。

(2) 「学び合い共有シートを活用した学び合い活動」とは

学び合い活動とは、児童が学習問題を主体的に解決するために、グループや学級で協力しながら学習を進めて、他者の考えに触れ、比較・検討・複合し、考えを練り上げることで、考えを広げ深める活動のことである。その際、学び合い活動を円滑に行うために、学び合い共有シートを活用する。学び合い共有シートは、デジタルホワイトボードを使って、調べたことをグループで共有し、単元を通して、学習問題やその解決に向けた1単位時間ごとのめあての達成に向けて、考えを練り上げていくシートのことである。シンキングツールを基にした枠を設け、1単位時間ごとに一枚の学び合い共有シートを使う。

(3) 「Look Back Sheet を活用した振り返り活動」とは

振り返り活動とは、1単位時間ごとや単元の終末に、学び合い活動での考えの広がりや深まり、学習の進め方について振り返ることで、自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を自己評価し、次時の改善につなげる活動である。振り返り活動を円滑に行うために、Look Back Sheet を活用する。Look Back Sheet は1単位時間ごとの終末で活用し、学習問題についての自己の考えの変容、新たな疑問、生活との結び付きについて等、学び合い活動での取組を振り返るシートである。

2 手立ての説明

(1) 学び合い共有シートを活用した学び合い活動

単元の学習問題を解決していく過程において、1 単位時間ごとのめあてを達成するためにグループで学び合い共有シートを活用する。学び合い共有シートの最初のページに活用方法とグループで考えを練り上げる時の決まり事を載せ、学び合い活動を円滑に行うことができるようにする。

学び合い共有シートの活用方法について、図 1 の①には、1 単位時間のめあてを入力し、児童が学習に見通しをもつことができるようにした。図 1 の②には、めあてを達成するために必要なことをグループで協力して調べ、入力する。図 1 の③には、②で調べた学習した内容から、自己の考えを入力する。入力した個人の考えを基に、グループで意見交流を行い、他者の意見に触れ、比較・検討・複合し、自己の考えを広げ深めながら、考えを練り上げていく。そして、図 1 の④には、グループのまとめとして入力する。このように、授業で学び合い共有シートを活用し、毎時間の学習を積み重ねていくことで、自己の考えを広げ深めながら学び合い活動を円滑に行うことができると考える。

学び合い活動を通して、自己の考えをもち、グループで意見交流を行い、他者の意見に触れ、比較・検討・複合し、考えを練り上げ、自己の考えを広げ深めながら、児童自らの力で学習問題を主体的に解決することができる。と考える。

また、学び合い共有シートの②には、何を調べるかという手掛かりを教師が提示し、児童が気付きなどを入力する場合と、児童自らが調べたものから共通点を見付け、手掛かりをまとめていく場合の二通りある。

めあてを達成するための調べる手掛かりを教師が提示する場合（図 2）は、教科書などの資料を手掛かりとし、資料ごとに内容を読み取る場面での活用に適している。教師が提示した資料から児童が数値の変化や気付きなどを読み取ることで、次の活動で自己の考えをもちやすくなる。と考える。

めあてを達成するために調べたことを基に児童が手掛かりをまとめる場合（図 3）は、調べる内容が多岐にわたり、共通点を見付ける必要のある場面での活用に適している。児童がめあてを達成するために必要なものを分類し、共通点を見付けることで、次の活動で自己の考えをもちやすくなる。と考える。

(2) Look Back Sheet を取り入れた振り返り活動

振り返り活動は、1 単位時間ごとの終末に、表計算ソフトで作成した Look Back Sheet（図 4）で行う。Look Back Sheet の①には、自己の考えの変容、新たな疑問、生活との結び付きなどについて文章で振り返ることができる。②は学習の進め方、③は学び合い活動での自己の考えの変容について、A～D の記号で評価を選択する。④は、単元の終末に、単元を通した学び合い活動についてや学習を振り返り、今後の学習や生活に生かせることについて文章で振り返ることができる。

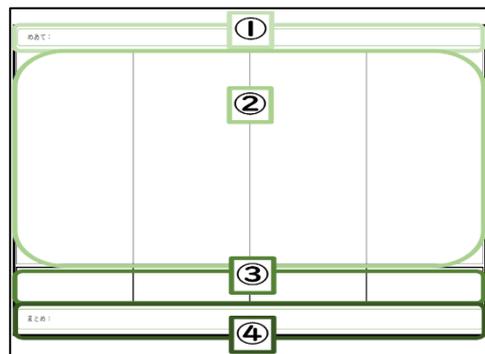


図 1 学び合い共有シート全体像

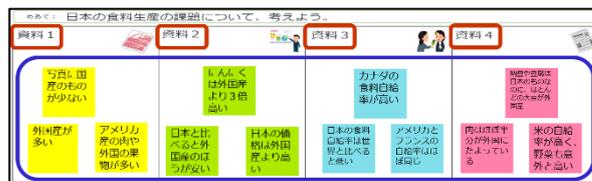


図 2 教師が手掛かりを提示する場合



図 3 児童が手掛かりをまとめる場合

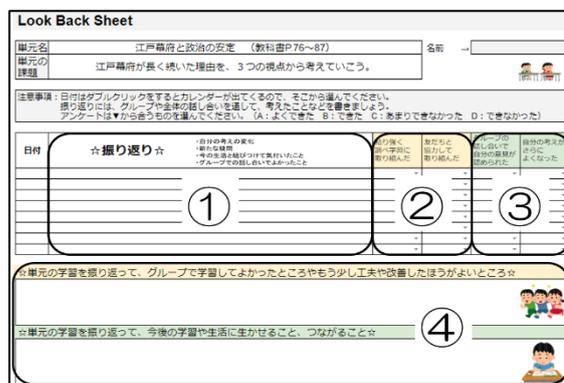
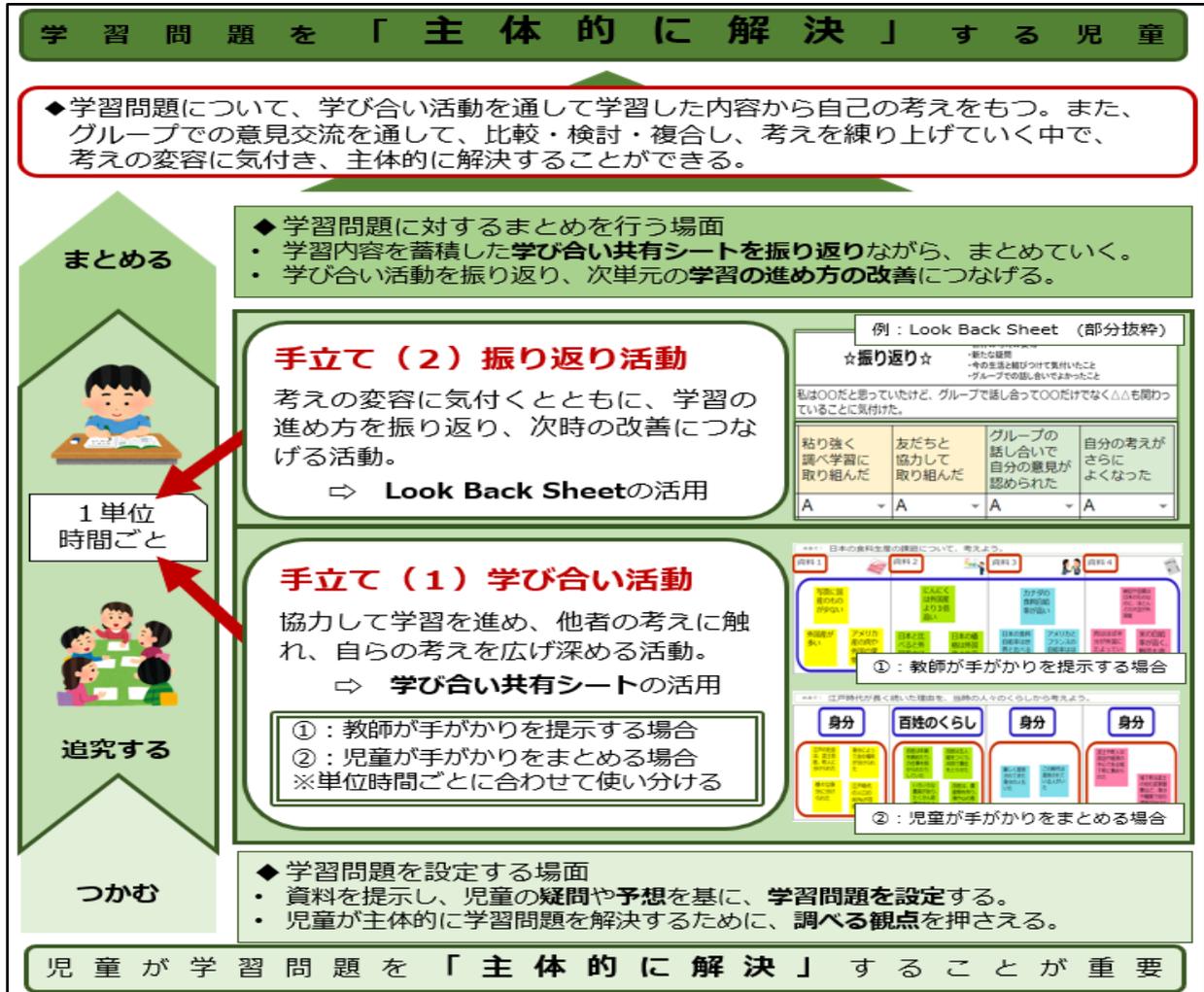


図 4 Look Back Sheet

振り返り活動を通して、単元を通しての振り返りをポートフォリオの形式で蓄積していくことで、児童が学習を振り返り、自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善する意識を高めることができる。

3 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 授業実践Ⅰ

対象	研究協力校 小学校第6学年 73名（3学級）
実践期間	令和4年6月30日～7月12日 6時間
単元名	「天皇中心の国づくり」
単元の目標	飛鳥、奈良時代の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子についての学習問題を設定し、学び合い活動を通して、予想したり学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、まとめ、天皇中心の国づくりについての自分の考えを表現し、理解する。

(2) 授業実践Ⅱ（指導案提供）

対象	研究協力校 小学校第5学年 61名
実践期間	令和4年9月9日～9月22日 5時間
単元名	「これからの食料生産とわたしたち」
単元の目標	食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目して、問いを見いだし、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などについての学習問題を設定し、学び合い活動を通して、予想したり学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、まとめ、これからの食料生産について多面的・多角的に考え、表現し、理解する。

(3) 授業実践Ⅲ（指導案提供）

対象	研究協力校 小学校第6学年 73名
実践期間	令和4年9月30日～10月11日 3時間
単元名	「今に伝わる室町文化」
単元の目標	人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画や、この頃の文化からその特色についての学習問題を設定し、学び合い活動を通して、予想したり学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、まとめ、室町文化の特色についての自分の考えを表現し、理解する。

(4) 授業実践Ⅳ

対象	研究協力校 小学校第6学年 73名（3学級）
実践期間	令和4年10月26日～11月14日 6時間
単元名	「江戸幕府と政治の安定」
単元の目標	江戸幕府はどのように始まったか、幕府はどのように世の中を治めたかなどの問いを設けて、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことについての学習問題を設定し、学び合い活動を通して、予想したり学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、まとめ、江戸幕府と政治の安定についての自分の考えを表現し、理解する。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	学び合い共有シートを活用した学び合い活動で、学習した内容から自己の考えをもち、グループで意見交流を通して、比較・検討・複合し、考えを練り上げていくことで、児童が協力し、学習問題を主体的に解決することができるであろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・学び合い共有シートの記述 ・Look Back Sheetの記述
見通し2	Look Back Sheetを活用した振り返り活動で、学び合い活動での考えの広がりや深まり、学習の進め方を振り返って、自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善する意識を高めることで、学習問題を主体的に解決することができるであろう。	

3 評価規準

(1) 授業実践Ⅰ 「天皇中心の国づくり」

知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥、奈良時代の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸の文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。 ・調べたことを年表や文などをまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥、奈良時代の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考えを表現している。 ・大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

(2) 授業実践Ⅱ 「これからの食料生産とわたしたち」（指導案提供）

知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などについて、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目して、問いを見いだし、食料生産の課題について考え表現している。 ・食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。
主体的に学習に	<ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などについて、予想

取り組む態度	や学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
--------	--

(3) 授業実践Ⅲ 「今に伝わる室町文化」 (指導案提供)

知識・理解	・京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、文化財や地図、年表などの資料で調べ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。
思考・判断・表現	・京都の室町に幕府が置かれた頃の人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画、この頃の文化から、その特色を考え、表現している。 ・京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画などの文化を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、予想や学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

(4) 授業実践Ⅳ 「江戸幕府と政治の安定」 (本実践)

知識・理解	・江戸時代の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。
思考・判断・表現	・江戸時代の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、江戸幕府がどのように安定していったかについて考え、表現している。 ・江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことについて、予想や学習の計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 指導計画 (授業実践Ⅳを記載。各単位時間における詳細については別添資料参照)

過程	時間	●ねらい ○学習活動 [☆]: ICT活用	重点	◇評価項目<方法(観点)> [記]: 記録に残す評価
つかむ	1	<p>●提示した資料から学習問題を作り、予想を立て、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○安土桃山時代と江戸時代の長さを視覚的に捉え、江戸幕府が長く続いた理由について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて 江戸幕府が長く続いた理由を予想しながら、学習問題を作ろう。</p> </div> <p>○長く続いた理由を予想し、学び合い共有シートに入力する。</p>	思 態	<p>◇安土桃山時代と比較し、江戸時代が長く続いた理由を予想することを通して、問いを見だししている。</p> <p><学び合い共有シート(思①)[記]></p> <p>◇武士による政治が安定したことについて予想を立て、学習問題を作り、学習を計画し、学習問題を解決しようとしている。</p> <p><学び合い共有シート(態①)[記]></p>
<p>単元の学習問題 江戸幕府が長く続いた理由を、3つの観点から考えよう。</p>				
		<p>○グループで考えた予想を分類し「大名」「当時の人々」「外国との関係」に観点をしぼり、次時の学習の見通しをもつ。</p> <p>○次時につながるように観点を基に児童が調べる順番を決め、学習計画を立てる。</p> <p>○つかむ段階での児童が出した調べたいことを基にめあてを作成する。</p>		<p>◇Look Back Sheetで学び合い活動を振り返り、自己の考えやグループのまとめを基に、自らの考えの広がり、新たな気づき、生活とのつながりなどや学習の進め方の改善を意識している。</p> <p><Look Back Sheet(態③)></p>
追究する	2 3	<p>●江戸幕府を安定させるために大名に行った政策について理解させる。</p> <p>○つかむ過程の予想を想起し、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて 江戸幕府が長く続いた理由を大名に対して行った政策から考えよう。</p> </div>	知 態	<p>◇世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代などの幕府の政策を理解している。</p> <p><学び合い共有シート(知)></p> <p>◇1単位時間ごとに学び合い共有シートを活用し、自己の考えを基にグループで考えを練り上げ、めあてを達成しようとしている。</p>

	<p>○学び合い共有シートを活用し、学び合い活動を通して、1単位時間ごとのめあてを達成しながら、単元の学習を解決していく。[☆]</p> <p>○江戸幕府が安定した理由を「大名の政策」の観点で、本時と次時の2時間を使い、調べまとめる。</p> <p>○個人でめあてに対する考えをもち、それらをグループでまとめ、めあてを達成する。</p> <p>○知識の定着を図るため、共有シートに記述された情報を黒板に整理し、学習サイトに掲載する。</p> <p>○学習の振り返りと振り返り活動を行う。[☆]</p>		<p><学び合い共有シート(態②)></p> <p>◇Look Back Sheetで学び合い活動を振り返り、自己の考えやグループのまとめを基に、自らの考えの広がり、新たな気付き、生活とのつながりなどや学習の進め方の改善を意識している。</p> <p><Look Back Sheet(態③)></p>
4	<p>●身分制と人々の暮らしについて調べ、武士を中心とした身分制について理解させる。</p> <p>○つかむ過程の予想を想起し、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて</p> <p>江戸幕府が長く続いた理由を当時の人々の暮らしから考えよう。</p> </div> <p>○学び合い共有シートを活用し、学び合い活動を通して、1単位時間ごとのめあてを達成しながら、単元の学習を解決していく。[☆]</p> <p>○個人でめあてに対する考えをもち、それらをグループでまとめ、めあてを達成する。</p> <p>○知識の定着を図るため、共有シートに記述された情報を黒板に整理し、学習サイトに掲載する。</p> <p>○学習の振り返りと振り返り活動を行う。[☆]</p>	知態	<p>◇世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、身分制を理解している。</p> <p><学び合い共有シート(知)></p> <p>◇1単位時間ごとに学び合い共有シートを活用し、自己の考えを基にグループで考えを練り上げ、めあてを達成しようとしている。</p> <p><学び合い共有シート(態②)></p> <p>◇Look Back Sheetで学び合い活動を振り返り、自己の考えやグループのまとめを基に、自らの考えの広がり、新たな気付き、生活とのつながりなどや学習の進め方の改善を意識している。</p> <p><Look Back Sheet(態③)></p>
5	<p>●キリスト教の禁止や鎖国について調べ、それらの政策による社会への影響を理解させる。</p> <p>○つかむ過程の予想を想起し、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて</p> <p>江戸幕府が長く続いた理由を外国との関係から考えよう。</p> </div> <p>○学び合い共有シートを活用し、学び合い活動を通して、1単位時間ごとのめあてを達成しながら、単元の学習を解決していく。[☆]</p> <p>○個人でめあてに対する考えをもち、それらをグループでまとめ、めあてを達成する。</p> <p>○知識の定着を図るため、共有シートに記述された情報を黒板に整理し、学習サイトに掲載する。</p> <p>○学習の振り返りと振り返り活動を行う。[☆]</p>	知態	<p>◇世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、鎖国などの幕府の政策を理解している。</p> <p><学び合い共有シート(知)></p> <p>◇1単位時間ごとに学び合い共有シートを活用し、自己の考えを基にグループで考えを練り上げ、めあてを達成しようとしている。</p> <p><学び合い共有シート(態②)></p> <p>◇Look Back Sheetで学び合い活動を振り返り、自己の考えやグループのまとめを基に、自らの考えの広がり、新たな気付き、生活とのつながりなどや学習の進め方の改善を意識している。</p> <p><Look Back Sheet(態③)></p>
まとめ	<p>6 ●学習をまとめる活動を通して、当時の人々が幕府の政治についてどう思ったか考え、表現させる。</p> <p>○江戸幕府が長く続いた理由を多面的・多角的に捉えるために、前時の学習を振り返り、「外様大名」「百姓」「オランダ商人」の立場になって江戸幕府をどう思っていたかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて</p> <p>江戸幕府の政治について、当時の人々がどのように思っていたかを考え、学習したことをまとめよう</p> </div> <p>○当時の人々が幕府の政治についてどう思ったかを個で考え、まとめる。</p> <p>○学習の振り返りと振り返り活動を行う。[☆]</p>	思態	<p>◇江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。</p> <p><課題(思②)></p> <p>◇Look Back Sheetで学び合い活動を振り返り、自己の考えやグループのまとめを基に、自らの考えの広がり、新たな気付き、生活とのつながりなどや学習の進め方の改善を意識している。</p> <p><Look Back Sheet(態③)[記]></p>

VI 研究の結果と考察（授業実践Ⅳ）

1 検証の視点 1

学び合い共有シートを活用した学び合い活動で、学習した内容から自己の考えをもち、グループでの意見交流を通して、比較・検討・複合し、考えを練り上げていくことで、児童が協力し、学習問題を主体的に解決することができるであろう。

(1) 実践の概要

まず、学び合い活動で学び合い共有シートを活用し、グループで協力して学びながら、めあての達成に向けた学習を進めた。第1時は、なぜ江戸幕府が長く続いたか児童に予想を立てさせ、学習問題を設定した。第2時から第5時の追究する過程では、学習問題の解決に向け、調べる観点（大名・当時の人々・外国）を基に、学び合い活動を行った。学び合い共有シートで、共有した学習内容を基に、自己の考えをもち、グループで意見交流し、比較・検討・複合して、よりよい考えを練り上げていくことができるようにした。その後、第6時は、江戸幕府が行った政策について、様々な立場（外様大名・百姓・オランダ商人）の人々がどのように思ったかを考えさせ、より多面的・多角的に学習問題を捉えるとともに、単元を通した学習問題のまとめを行った。

(2) 結果

つかむ過程で、児童の疑問から学習問題を設定し、児童は見通しをもって、その後の追究する過程の調べ学習に取り組むことができた。

追究する過程での学び合い活動においては、児童が教科書や資料集を使い、多くの情報を入力し、グループで調べたことを基に、話し合いながら分類し、共有することができた（図5）。調べる際に、グループで教科書と資料集のどちらを調べるか分担したり、教科書の調べる箇所を分けたりしながら、時間内に多くのことを調べることができるよう相談している場面も見られた。また、なかなか書き出すことができない児童もいたが、他の児童が入力しているものを参考にしたり、周りの児童と一緒に調べたり、教えてもらったりしながら取り組むことができた。その後、グループで調べたものを学級全体で発表し、学習問題の解決に必要な知識を共有した。

自己の考えをもち、グループで考えを練り上げる（図6）際は、調べたことを基に、自分の考えをもつことができた児童が多くいた。しかし、調べたことを基に複数の根拠を合わせた考えをもつことができた児童は、その半数ほどだった。また、考えを書くことができない児童も



図5 学び合い活動（調べ、分類する場面）



図6 学び合い活動（考えを練り上げる場面）

表1 考えを練り上げる際のグループでのやり取り

S1: まず、みんなの考えを読もう。
S2: 反乱が起きないようにキリスト教を禁止して幕府の命令に従わせようとしたからではないかな。
S3: 鎖国で貿易や情報を独占したことも影響してそうだよ。
S4: そうか。だから江戸幕府は長く続いたのか。

クラスに1、2名いた。学び合い活動を通して、グループで考えを練り上げていく中でのグループでのやり取りの一部を表1（8頁）にまとめた。このようなやり取りが行われたことで、自己の考えを書き出すことができなかった児童もグループの考えを練り上げる際に、互いの意見を読み合い、比較し、同じ考えや異なる考えに気付くことができている。また、意見交流しながら検討する中で、江戸幕府が長く続いた理由を複数の根拠を複合しながら、よりよいまとめを考えようと取り組む様子が見られた。振り返りでも他者の考えに触れ、相談することでよりよいまとめにすることができたと記述していた児童もいた。

下記は、単元の学習を終えた後のLook Back Sheetの振り返り（学び合い活動に関するもの）の一部抜粋である。

- ・学び合い共有シートを使うときにグループになることで、話し合いが上手に進められた。
- ・みんなの意見を読み合えるのでしっかり頭に入ってくるのがよいと思った。
- ・自分で気付かなかった意見もグループの人と意見を共有したときに気付けた。
- ・自分が考えを書けなかったときにヒントをくれたり、班の人の意見を見て自分では思いつかなかった事が分かったりして書きやすくなった。
- ・みんなの意見が聞けるのでグループで学習を進めていくのは、とてもいいと思った。
- ・自分と違う考えや意見がたくさんあったのでとてもよかった。

学び合い共有シートを活用した学び合い活動では、「協力して学ぶことで、一人では気付かなかったことに気付いた」「知識が広がった」「自分とは異なる考えを知った」など、考えの広がりや深まりについて記述している児童が多かった。

また、Look Back Sheetでは、図4（3頁）の②学習の進め方、③学び合い活動での自己の考えの変容に気付くことの二つの視点で児童の主体的に解決する姿勢を見取ることができるようにした。②学習の進め方に関する自己評価の「粘り強く調べ学習に取り組んだ」では、6学年3学級で「よくできた（A）」を選んだ児童を第1時と第6時を比較したところ、約19%増加した。また、「友達と協力して取り組んだ」も同様に比較したところ約11%増加した（図7）。

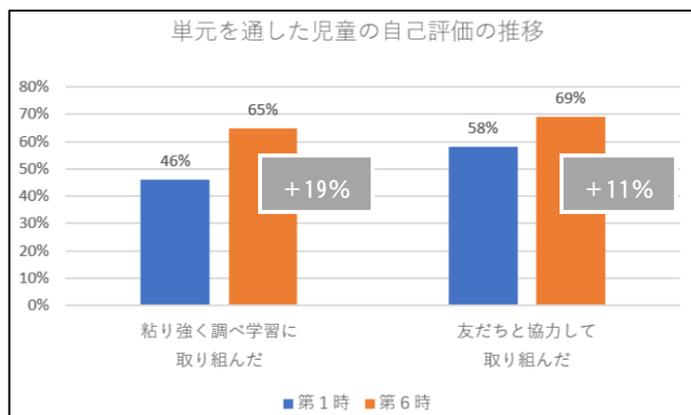


図7 単元を通した児童の自己評価の推移

図7)で、粘り強さや協力しながら学習に取り組むことができる児童が増加した。

(3) 考察

本授業実践では、単元を通して調べる観点（大名への政策・当時の人々・外国との関係）を決めた。観点ごとに調べる内容は異なるが、授業の終末に、繰り返し学習問題について考えを深めていった。そのため、児童は、学び合い活動を行うことで、調べること、考えることが明確になり、学習問題の解決に向け、学習を進めていき、見通しをもって取り組むことができたと考えられる。図5（8頁）で見られるように、調べた内容を共有し、分類していくことで知識の不足を補い合い、新しい気付きを得られたこと、他者の調べた内容から自分が調べることのヒントを得るなど協力して学習を進めたことが、児童が主体的に解決する姿勢につながった。図6（8頁）で見られるように、江戸幕府が長く続いた理由を互いの考えを参考にしながら、複数の根拠から考えを練り上げ、考えを広げ深めることができた。また、図7（9頁）の学び合い活動に関する自己評価から分かるように、児童は、学び合い活動を行う中で粘り強く学習に取り組む姿勢や協力することのよさに気付き、自分たちで学習問題を解決することができた達成感を味わい、主体的に学習に取り組むことができたと考えられる。授業では、学び合い活動の中で「考えが似ているね」「（考えを伝えた後）どう思う」「（考えを練り上げていく場面で）何が大事なことかな」などとグループの中で互いの

考えを認め合いながら、対話を重ねることで、グループの中で自己の考えが認められたという満足感や達成感が高まり、学習問題を解決していこうという雰囲気を見出し、児童自らが作り上げることができたと考える。

さらに、なかなか書き出すことができない児童も Look Back Sheet の振り返りに見られるように、グループの活動の状況を確認できることやグループの友達に教えてもらうことができるため、安心して学習に臨むことにつながった。このように学び合い活動の対話を通して、主体的に解決する意欲をもたせることができたと考える。

学び合い共有シートを活用した学び合い活動を行うことで、児童は学習問題やその解決に向けた1単位時間ごとのめあてを達成するために、見通しをもって、協力して取り組むことができた。また、調べたことを共有し、個々の考えもち、それらの考えを基に比較・検討・複合し、グループでよりよい考えを練り上げ、考えを広げ深めることができた。以上のことから学習問題を主体的に解決する児童を育む上で有効であったと考える。

2 検証の視点2

Look Back Sheet を活用した振り返り活動で、学び合い活動での考えの広がりや深まり、学習の進め方を振り返って、自己の考えの変容に気付くとともに、学習の進め方を改善する意識を高めることで、学習問題を主体的に解決することができるであろう。

(1) 実践の概要

授業実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、アンケート作成ソフトで作成した Look Back Sheet だったが、前時の振り返りを教師が集約し、確認することができたが、児童は振り返りや自己評価を次時以降、確認することができなかった。そのため、授業実践Ⅳ今回の実践では表計算ソフトを活用した図4（3頁）の Look Back Sheet に変更した。

図8 Look Back Sheet の活用例

学び合い活動を通しての、考えの変容や学習の進め方について、振り返り活動を行った。図4（3頁）の①には、自分の考えの変化や新たな気付き、今の生活と結び付けて気付いたこと、グループの話合いでよかったことなどの振り返りを書くように伝えた。また単元の終末には、単元全体の学習内容の振り返りと、単元を通した学び合い活動について、よさや工夫点、改善点を記述させた（図8）。

(2) 結果

検証の視点1でも述べたように、Look Back Sheet では、図4（3頁）の②学習の進め方、③自己の考えの変容に気付くことの二つの視点で児童の主体的に解決する姿勢を見取ることができるよう自己評価の項目を設定した。③自己の考えの変容に気付くことにおける「自分の考えがさらによくなった」の項目では「できた（B）」を選択した児童が複数いた。このような評価をした児童の振り返り図9（11頁）の児童Aと児童Bでは、より詳しく調べたいことや次時につながる新たな疑問などを挙げている児童が多かった。

また、「グループの話合いで自分の意見が認められた」の項目では「あまりできなかった（C）、できなかった（D）」と低く評価をしている児童も複数いた。このような評価をした児童の振り返り（11頁、図9の児童Cと児童D）では、「自分の考えは書けなかったけど、班の人の意見や他の班のまとめを聞いて納得した」「江戸幕府が長く続いた理由を友達の意見を聞いて納得することができた」などと記述していた。図9（11頁）の児童Cと児童Dは、グループで意見交流を行ったことで、自分の考えをもつことができたため、「自分の考えがさらによくなった」の項目で、「できた（A）」を選んでいることが分かった。

さらに、「自分の考えがさらによくなった」の項目で「できた（A）」を選んでいる児童の振り返りに「自分たちだけでもできるようになったから、次の社会の授業もまた頑張っていきたいと思った」と図9の児童Eは記述しており、次時の学習への意欲を高めている児童もいた。

児童	☆振り返り☆	粘り強く調べ学習に取り組んだ	友だちと協力して取り組んだ	グループの話し合いで自分の意見が認められた	自分の考えがさらによくなった
A	自分や他の子と協力してまとめを完成させることができた。一国一城令や参勤交代などの厳しい法律があったのに、なぜ250年で途切れてしまったのかを知りたい。 <u>反抗する力がなかった人たちは、どんな気持ちだったのか？外国とかの関わりは、どうなっていたのかを調べていきたい。</u>	B	A	A	B
B	徳川家の江戸幕府は他の大名の取り締まりをしたりして、その大名の力を弱めたことがわかった。 <u>江戸幕府についてもっと詳しく調べたい。</u>	A	A	A	B
C	自分の考えはかけなかったけど、 <u>自分の班の人や他の班の子のまとめを聞いて納得した。</u>	B	C	C	A
D	<u>江戸幕府が長く続いた理由を友だちの意見を聞いて納得することができた。</u>	D	A	C	A
E	江戸幕府が続いた理由は一国一城令などで決まりを作ったと思う。 <u>自分たちだけでもできるようになったから次の社会もまた頑張っていきたいと思った。</u>	A	A	B	A

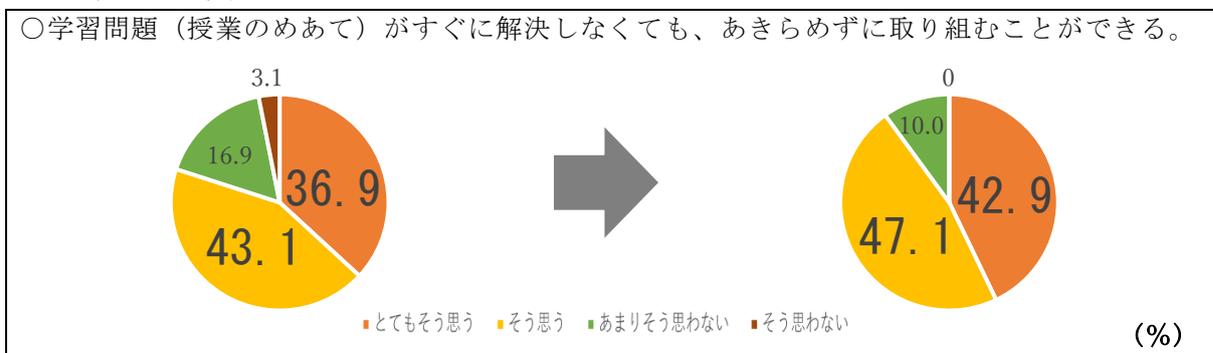
図9 1単位時間ごとの振り返りと自己評価

下記は、単元の学習を終えた後の Look Back Sheet の振り返り（自己の考えの広がりや深まりに気付いたこと、学び合い活動での考えの広がりや深まり、学習の進め方に関するもの）の一部抜粋である。

- ・友達と意見を交流することによって、自分の意見が変わったり参考になったりすることがあって学習がしやすかった。
- ・まとめるときに全て自分たちでやることができた。はじめは、あまりグループで聞き合わずにそれぞれになってしまうのも多かったけれど、だんだんなれてきて、『話し合い』がさらにできて勉強の理解も深まった。
- ・自分だけでは分からないことを、友達に聞くことができ一人で調べる学習よりもよく分かった。お互いが分からないところは一緒に探し合ったり、自分の役割を決めたりしてしっかりとやれた。
- ・よかったところは、まとめをみんなで考えるところだと思いました。理由は自分の考えだけだと足りない部分が出てくるけど、みんなの考えを集めるといろいろな考えがまとまって、めあてに合ったまとめができるからです。

自分たちで解決することができた達成感やグループで協力し学ぶことでよりよいまとめを導き出すことができたという記述をする児童が多かった。

さらに、下記（図10）は、本研究実践前後の児童へ行ったアンケートの一部である。（左が実践前・右が実践後）



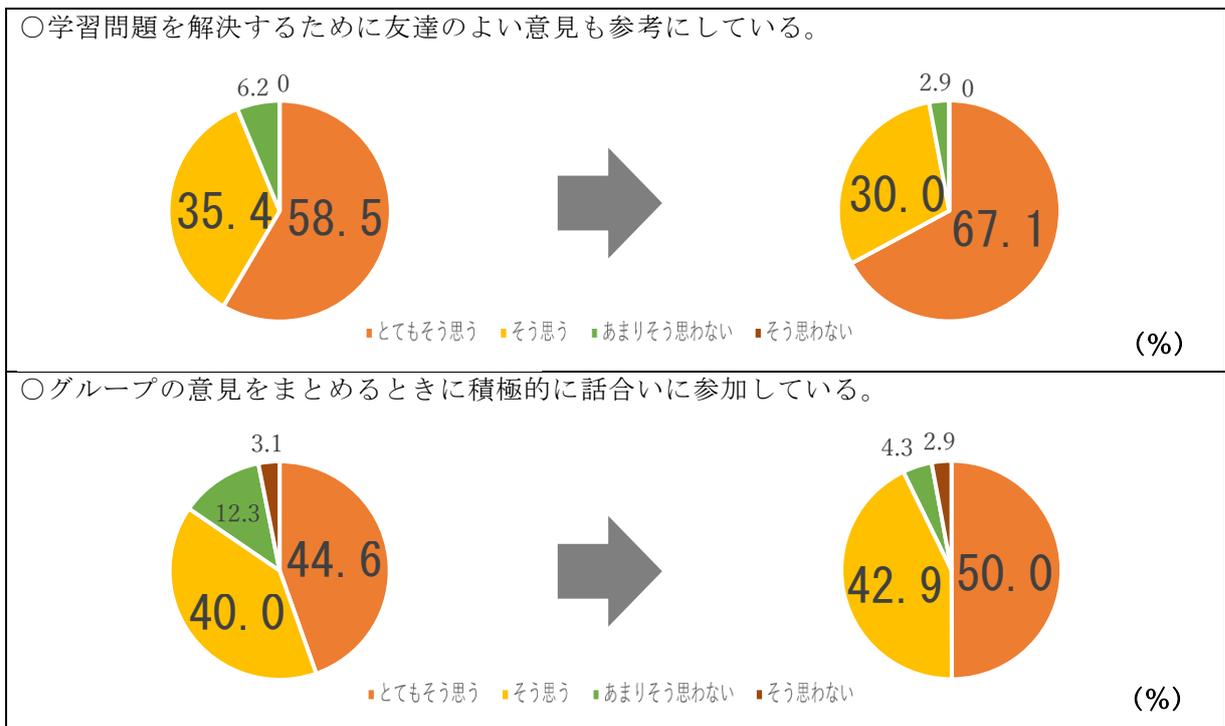


図 10 授業実践前後のアンケート結果

「とてもそう思う」、「そう思う」の割合を比較したところ、「あきらめずに取り組むこと」は 10.0%、「友達の意見を参考にしている」は 3.2%、「積極的に話合いに参加している」は 8.3%と、いずれの項目でも増加していた。

(3) 考察

児童一人一人の振り返り活動の自己評価と振り返りを比較し、関連付けながら見ていくと、結果で記述した 11 頁の図 9 の抽出児童のように、学び合い活動を振り返ることで、自らの学びについて、根拠をもって考えながら、自らの考えの変容に気付き、児童が理由をもって振り返ることができていることが分かった。このような振り返り活動から、児童が自己の考えの変容や学習への取組を客観的に捉えることができていると考えられる。また、図 10 のアンケート結果から、単元を通じて、振り返り活動を 1 単位時間ごとに行うことで、児童の学習改善への意識を高め、学習の意欲が高まっていることが分かる。このように単元を通して振り返り活動を取り入れたことで、協力し、主体的に解決していく児童が育むことができたと考える。

1 単位時間ごとの終末に Look Back Sheet で振り返り活動を行うことで、児童が単元を通して自己の考えの変容に気付いたり、学習の進め方を改善したりすることで、学習問題を主体的に解決する児童を育む上で有効であったと考える。

Ⅶ 研究のまとめ（授業実践Ⅳ）

1 成果

(1) 児童自らが学習問題やその解決に向けた 1 単位時間ごとのめあての解決に向けて、互いの考えをグループで比較・検討・複合し、練り上げることで、グループで対話を重ねながら協力して取り組み、考えを深めることができ、学習問題を主体的に解決することにつながった。

また、単元の学習問題を追究する過程において、学び合い共有シートを活用した学び合い活動で、協力して調べ、知識の不足を補うことができた。

さらに、学習になかなか取り組むことができない児童も友達が調べた内容を参考にするなど他の児童と関わり、協力しながら学習に取り組むことができた。

- (2) Look Back Sheet を活用した振り返り活動において、学び合い活動を振り返る時間を取り入れ、自らの考えを、グループの考えへと練り上げていく中で、児童が自らの考えの変容に気付くことができた。また、1 単位時間ごとに学び合い活動の進め方のよさや不十分さについて考え、学習の進め方の改善を意識することができた。さらに、児童が学習問題を解決していこうとする雰囲気を作るとともに、学習問題やその解決に向けた 1 単位時間ごとのめあてを解決することができた達成感を味わうことができ、授業に臨む姿勢が意欲的になるなどの変化が見られ、主体的に解決する児童の育成につながった。

2 課題

- (1) 学習問題を主体的に解決する児童を育むためには、児童が興味をもって取り組むために、どのような学習問題や観点を設定するか、また、どのような手掛かりを提示し、分類し、まとめさせるかを教師が児童の実態を踏まえて事前に考え、工夫する必要がある。
- (2) Look Back Sheet を用いた振り返り活動では、1 単位時間ごとの振り返りの内容が自己の考えの変容、新たな疑問などでなく、学習内容についての記述になっており、考えの広がりや深まりが読み取れない児童もいたため、どのように振り返るのか児童により意識させるための提示が必要である。

Ⅷ 提言

本研究では、協力して学び合いながら、学習問題を主体的に解決する児童の育成するために、学び合い活動と振り返り活動を基に実践してきた。単元を通して、協力して学ぶための学び合い活動とその活動を振り返るための振り返り活動は、児童が主体的に解決していくために有効であった。このように児童が主体的に解決する学習を行うためには、単元を通してどのような学習を行うのか、学習問題を設定する際に児童に見通しをもたせ、取り組ませることが大切である。また、1 単位時間ごとのめあても、単元の学習問題に立ち返ることができるようにつながりをもたせ、児童が学習問題を主体的に解決していくことができるように設定することも重要である。さらに、授業について何を学習したのか、学習したことについてどのような考えをもったのか、自己の学習を振り返る場を設定することで、自己の考えの広がりや深まりに気付かせ、学習への意欲を高め、次時や次単元につなげていくことが必要になる。今後、知識の定着や家庭での発展的な自主学習につながる「学習サイト」の充実も図っていきたい。

※「学習サイト」とは

授業の板書や学習内容のまとめ、動画資料などを蓄積し、学習支援ソフト内で閲覧することができる Web ページのことである。授業時間にとらわれず、家庭でも授業で学んだことの復習に使ったり、発展的な学習につなげたりすることができ、児童が主体的に学習を進めることができると思う。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 教育課程研究センター
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』（2019）
- ・田中 博之著 『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き』 教育開発研究所（2020）
- ・社会科教育 12 月・752 号 2021 年 12 月 1 日発行 明治図書

<担当指導主事>

山中 英史 西原 和久